グリニッチ福音キリスト教会　　マナ 086

Manna

2010年05月23日

【今週の暗唱聖句】

わたしは助け主をあなたがたのところに遣わします。その方が来ると罪について、義について、さばきについて、**世**にその誤りを認めさせます。 ヨハネ16：7～8

●主はなぜ教会に「助け主」を遣わされたのであろうか？一人一人の信者の成長のためというのは答えの一部である。聖霊によって歩む中で御霊の実･･･「愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」がクリスチャンの性質になっていく。キリストに似姿に変えられて行くことはまさに聖霊の御業なのである。ハレルヤ。

●しかし、上記の御言葉の主要なポイントは、後半の「世にその誤りを認めさせます。」という所にある。ヨハネの福音書で「**世**」という語が用いられる時、「神に従わず、罪の束縛の中にある社会とその中にいる人々」を指す。聖霊は、１）神に背を向けている罪とその結果としての様々な罪、２）イエスの十字架によって与えられる神の義、３）人類について下ろうとしている神の裁きについて、神に従わない人々の無理解や誤解を解き、はっきりと教えられ、宣教を進められるのである。罪人は、聖霊が働いてくださることによって、初めて悔い改めに導かれることができるのである。

●使徒２章の後半、ペンテコステの日に三千人の人たちが悔い改めに導かれ、洗礼を受けてクリスチャンになった。これはペテロが類い稀なすばらしいメッセージをしたからではない。一介の漁師の舌足らずな話しではあっても、聖霊が説教を聞いていた人々に臨み、人々に誤りを示し、救いを求めさせたからこそ、大挙して救われたのだ。

●私たちに与えられている大切な使命は、福音宣教である。聖霊はその宣教の働きを導き、助ける「助け主」なのである。ここに私たちが「執り成しの祈り」をささげる理由もある。聖霊は私たちの執り成しと共に、未信者の家族、友人達のうちに働き、彼らを救いへと導いてくださるのである。■

Pentecost Paintings

【先週のメッセージより】使徒１：12～26

祈祷会の中で示されたこと～マッテヤの選び

●イエスの昇天後、１１弟子、他の弟子たち、イエスの兄弟姉妹と母マリヤを含む120人の者たちが約束の聖霊を待ち望み、熱心に祈りをしていた。祈りを通してペテロはユダの死によって欠けが生じた12弟子の一人分の埋め合わせをするよう、導かれ、選考、くじ引きの結果マッテヤが選ばれた。ここで、大切なのは、マッテヤがイエスの働きと十字架、死と復活の生き証人となることであった。

●聖書は、神が確かに人間の営みに介入したことを示す、証言の書物、言い換えるなら、神が人と共に歩んだ歴史書である。歴史において最も大切なのは、生き証人であり、歴史上最も大切な出来事であるイエスの復活の生き証人が補填される必要があったのは理にかなっている。

●マッテヤの選びに「くじ」が用いられたことも不思議に思ってはならない。なぜなら、人の感覚からは偶然と思えることでも、神において偶然は存在しないからである。聖書はこの事実をあらゆる所で示している。もしこの事実を素直に信じる決心をしていくなら、

「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」

とのローマ8：28の約束は私たちにとり大きな力となっていく。

【霊的な戦い（3）見えざる世界】　三つの霊的存在

先週、神、御使い、人間という三つの霊的存在があることを確認し、その違いについても考察した。今回は、その共通点である「言葉を有する存在」であることについて考えよう。

●人間の内に湧き上がってくる「思い」には三つの起源がある

聖書を調べると、神と人､御使い&悪魔と人、神と御使い&悪魔との間には「会話」があるということに気づくはずだ。霊的な存在は互いに話すのである。聖書をさらに調べると、神や御使いが人間に語られる場合、幻を見て声を聞く時もあれば、声だけ聞こえる時、どういう方法か具体的に明記されていない「示し」（使徒21:4等）を受ける場合もある。どの場合も頭の中に「思い」が入ってくるという意味では変わりない。その「思い」の起源は、神か、御使いか、あるいは自分か三者ありうることを覚えよう。

●霊的な戦いの第一歩は「思い」の起源を聞き分け、聞くべきは聞き、聞かざるべきは排除するという基本的なことである。聞き分けの基準は、与えられている聖書である。聖書に精通することの急務はここにあるのである。